令和６年度　大田区地域ケア会議区レベル会議　議事要旨

日　　時

令和７年１月 31 日（金）　午後２時 20 分～午後３時 10 分

会　　場

大田区役所本庁舎 201，202 会議室（ＷＥＢ会議、書面会議併用）

参集出席委員（11 名）

藤原会長、今井委員、田中委員、中原委員、冨田委員、常安委員、深澤委員、
青木委員、御任委員、武内委員、薄根委員

ＷＥＢ会議出席委員（５名）

安達副会長、正林委員、内田委員、瀧委員、小野委員

書面による意見提出（２名）

深道委員、藍原委員

欠席委員（２名）

松坂委員、丸山委員

区出席者（18 名）

＜福祉部＞

張間福祉部長、政木福祉支援担当部長、黄木福祉管理課長、
長谷川福祉支援調整担当課長、喜多高齢福祉課長、金子元気高齢者担当課長、
森田介護保険課長、松田介護サービス推進担当課長、上田大森地域福祉課長、
木田調布地域福祉課長、根本蒲田地域福祉課長、若林糀谷・羽田地域福祉課長

＜地域力推進部＞

山浦地域力推進担当係長（大渕地域力推進課長代理）

＜健康政策部＞

今岡健康政策部長、関健康医療政策課長、小西災害・地域医療担当課長、
荒波健康づくり課長

＜まちづくり推進部＞

吉田住宅担当課長

次　　第

１　開　会

２　報告事項

（１）大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議の事例紹介について

資　　料

【資料番号１】地域ケア会議について

【資料番号２】大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議実施報告書

【参考資料１】大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議（令和５年度実績）

【参考資料２】大田区地域ケア会議区レベル会議の議事に関する事前意見及び質問と回答について

【議事要旨】

高齢福祉課長

●地域ケア会議の司会進行を務める高齢福祉課長です。よろしくお願いいたします。

●計画策定年度以外の地域ケア会議区レベル会議は、第３回推進会議の後に続けて、年に１回開催しています。

●昨年度、地域ケア会議の階層見直しを行い、今年度から日常生活圏域レベル会議で検討された結果を直接、区レベル会議の場に報告する方式へ変更しました。本日は、各地域福祉課で選定された報告書をもとにご報告させていただきますが、内容はこれまでよりもさらに地域の実情を共有できるものとなっております。

●資料は、事前に配布させていただきました、次第と、【資料番号１】地域ケア会議について、【資料番号２】大田区日常圏域レベル地域ケア会議実施報告書です。この２つの資料を用います。お持ちでない方がいらっしゃいましたら、事務局までお知らせください。

●また、【参考資料１】として、大田区日常圏域レベル地域ケア会議（令和５年度実績）と、本日、机上配布させていただきました、【参考資料２】につきましては、事前に委員の皆様からいただいたご質問・ご意見を一覧にし、これに区としての回答などを記したものをご用意しております。以上が資料となります。

●ここからの議事進行は、会長にお願いします。

会長

●次第２番の（１）大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議の事例紹介について、事務局より説明をお願いします。

高齢福祉課長

●報告事項（１）大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議の事例紹介について、具体的内容に入る前に、資料番号１の地域ケア会議について簡潔にご説明をさせていただきます。

＜資料番号１＞

●介護保険法では、高齢者の課題解決や地域課題の抽出等を目的に、区市町村は地域ケア会議を開催することとされています。区では、資料番号１に記載のように、個別レベル・日常生活圏域レベル・区レベルの３階層で会議を構成し、このうちの区レベル会議については、当推進会議と同時開催して、地域課題等の解決や政策反映などの役割を担っております。

●地域ケア会議は、会議の冒頭でご報告させていただきました通り、個別レベル・圏域レベル・区レベルの３階層のうち、圏域レベルで細分化していた基本圏域レベルを昨

年度末で廃止しました。

●階層の見直しにより、地域包括支援センターが主体として開催する日常生活圏域レベルにおいて検討された地域課題等を、地域福祉課の４管轄による基本圏域を介さずに、直接区レベル会議でお諮りすることで、より高齢者の実態に即した意見交換などができるものと考えております。

●資料番号２では、各地域包括支援センターよりご報告を受けました、大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議のうち、様々な分野から抜粋して取り上げております。それでは、大森地域福祉課の圏域から順番にご報告させていただきます。

＜資料番号２（ｐ１）＞

大森地域福祉課長

●報告書の日常生活圏域は池上、取り組んでいるのは地域包括支援センター徳持です。テーマは、「通いの場に参加されない方に対するアプローチ方法の検討」についてです。特に男性の参加率が低いため、地域への参加を促すための方法を検討しています。

●日常生活圏域レベル地域ケア会議は、昨年９月 30 日に池上特別出張所で実施しました。出席者は、池上地区自治会連合会会長の他、徳持北町会会長、民生委員など、15名が参加しております。

●会議では、通いの場に参加されない方へのアプローチ方法とイベントの周知方法について検討を行いました。イベントの周知方法としては、区設置の掲示板や、自治会町会の掲示板を使い、イベントの開催をお知らせしています。さらに、各団体を通じてイベントの周知活動を行い、過去に参加された方にはメールでイベントの告知をしています。

●会議の開催場所は地域包括支援センター徳持で池上駅から近く便利ではありますが、池上地区全体から見ると端に位置するため、池上特別出張所などでの開催を検討できないかという意見も出ました。企画内容に関しては、参加者が興味を持つ講師やテーマを情報収集し、その都度適したイベントを開催しています。

●区レベル会議での提案として、男性が気軽に地域へ参加し、役割を持ちながら活躍できる場所を作ること、リーダー的な存在が見つかるとさらに地域が活気づくとの意見が出ました。

●今後の事業や取り組みとしては、通い続けられる場に求められる雰囲気作りや、専門的な知識を持った講師の派遣などが提案されています。実際に地域包括支援センター徳持では、令和５年度には音楽鑑賞会を３回、体力測定を１回、今年度はコーヒーの飲み比べを１回、音楽鑑賞会を４回開催しております。

●参加人数はまちまちで、例えば昨年９月の音楽鑑賞会では男性６名、女性２名が参加しており、一番多くの参加者が集まりました。平均すると、１回あたり４名程度の方が参加しており、男性２名から３名、女性１名から２名という構成です。参加者は毎

回同じではなく、異なる方が参加しています。音楽鑑賞会では昭和の歌謡曲などを選曲し、その理由や思い出話を交えて手拍子をしたり、一緒に歌ったりすることで、参加者同士でコミュニケーションが生まれています。定期的にイベントを開催し、地域の身近な存在として認知されるよう取り組んでいます。

●今年度は、３月に池上本門寺を巡るイベントの開催を予定しております。池上本門寺は著名人のお墓が多く、地域の歴史に詳しい方がガイドを務め、２時間程度池上本門寺のお墓を巡る企画を考えています。

＜資料番号２（ｐ２）＞

調布地域福祉課長

●続きまして、調布地域福祉課長より雪谷地区で検討された日常生活圏域レベル地域ケア会議についてご報告をさせていただきます。

●会議のテーマは、「セルフネグレクト状態にある人への支援」です。近年、一人暮らしの高齢者が増加していますが、高齢による身体機能の低下、社会的孤立、精神疾患等、様々な課題を抱えている高齢者も多く見られます。その中で、医療、介護、行政等の多職種の支援機関が、支援のあり方を検討しました。出席者は、医師・看護師などの医療従事者、ケアマネージャーやホームヘルパーなどの介護事業職員、また、社会福祉協議会の職員など、計 54 名の方が参加しました。

●会議の内容は、まず調布地域福祉課、心の健康相談の保健師係長が、「セルフネグレクトとは」というテーマで講話を実施しました。セルフネグレクトの状態について、具体例としてごみ屋敷問題を用い、全員でセルフネグレクトの理解を深めました。その後、様々な職種をミックスした構成による８名ほどのグループに分かれ、それぞれのグループが話し合いの中でセルフネグレクトの事例を出し合い、多職種での課題抽出や解決の道筋などを議論しました。

●セルフネグレクトの状態にある方は、自ら支援を求めない、または支援を拒否する、ひきこもりの傾向や認知機能の低下など、様々な要因が関係しています。その解決には、支援者間の情報共有を行い、役割分担をしながら少しずつ関わりを増やしていくといった案が出されました。

●実際に、ケアマネージャーやヘルパーなどがご本人たちに接する中で、関わり方が非常に難しいという実情を話されていました。また、このような場合、医療的アプローチが有効なのかについて、医療従事者への質問もあり、多職種ならではの活発な意見交換が行われました。

●様々な支援機関がそれぞれの立場でできること、協力し合えることなど、短い時間ではありましたが、意見を出し合い、協力関係を強める有意義な時間となりました。

＜資料番号２（ｐ３）＞

蒲田地域福祉課長

●続きまして、蒲田地域福祉課長より、蒲田東圏域で検討された地域ケア会議について、ご報告します。テーマは、「蒲田本町二丁目の地域の現状や課題の再確認」を設定いたしました。参加者は、蒲田本町二丁目町会の役員、民生委員、介護事業者、蒲田東特別出張所、また地域包括支援センターは、２ヶ所ありますので、蒲田と蒲田東の職員が参加しております。

●まず、蒲田東地区の現状を知るために、高齢者人口、高齢化率、また高齢者人口に占める一人暮らし高齢者の登録率について、データを提示しました。蒲田東地区の高齢化率は、区の平均よりも約１ポイント少なく、21.2%です。それにも関わらず、一人暮らし高齢者の登録数は、大田区の 18 地区で上から２番目のため、登録率は高い地区です。

●基礎データをもとに、グループワークのテーマを設定しました。「認知症状や、一人暮らしの方で心配に思ったことはありますか」、「地域でこんなサポートや活動があればよいと思うことを教えてください」というテーマで意見交換を行いました。グループワークの中で出たご意見については記載の通りです。

●会議の終了後、地域での体操教室にフレイル予防の講座を加え、体力測定の場を拡充いたしました。また、蒲田地区では毎年夏休みに小学生向けに認知症講座を実施しておりますが、今回は出前型という形で地域の小学校に出向き、認知症セミナーや高齢者の疑似体験を行いました。さらに、今年３月には、蒲田の西側で既に実施している見守り声かけ訓練を、これまで行っていなかった蒲田の東側でも実施する計画を進めています。このような取り組みを通じて、地域の課題に対する対策を深めています。

＜資料番号２（ｐ４）＞

糀谷・羽田地域福祉課長

●続きまして、糀谷・羽田地域福祉課長より、羽田圏域で検討された地域ケア会議について、ご報告します。内容の報告に入る前に、羽田地区の高齢者に関する現状について報告させていただきます。

●羽田地区は、65 歳以上の高齢者の方が令和７年１月１日現在で 8,983 人いらっしゃいます。高齢化率は 23.3%であり、これは区全体平均の 22.2%を上回っている状況です。次に、ひとり暮らし高齢者の登録者数が 880 人いらっしゃいます。65 歳以上の方に対する登録者数の割合は 9.8%で、区全体平均が 8.6%のため、これも高い状況です。最後に、羽田地区は区のハザードマップで多摩川の家屋倒壊等氾濫想定区域を一部含んでいる地域です。そのような背景のもと、この会議を開きました。

●会議のテーマは、「羽田地区におけるひとり暮らし高齢者等の防災（風水害）支援について考える」です。

●テーマの選定理由としましては、台風などの風水害が発生した場合におけるひとり暮らし高齢者等の避難を地域で検討すること、民生委員、特別出張所と地域包括支援センターで連携して地域の防災意識向上を図ること、そして、マイタイムラインや防災ハザードマップについて理解を深めること、などでございます。

●開催日時は、令和６年８月８日で、羽田地域力推進センターで行いました。出席者は、民生委員の方を中心に、特別出張所、地域包括支援センターの職員、また講師である公益財団法人市民防災研究所の方々でございます。検討内容は、マイタイムラインに関する講義をもとに、大田区防災アプリや防災ハザードマップなどについて理解を深めました。

●その後の意見交換会では、防災ハザードマップなど日頃から確認しておく必要性を感じた、高齢者が防災アプリの操作に慣れていないため、地上波デジタルテレビのデータ放送による情報取得がわかりやすいと思う、小中学校の避難所における要配慮スペース等の高齢者、障がいのある方への周知や支援者名簿の整備など、区の対策を知る必要性を感じた、というご意見をいただきました。

●今後の取り組みとしましては、民生委員の方が担当地区のひとり暮らし高齢者等に区の防災アプリのチラシを配布していただくとともに、データ放送の活用による防災情報や避難情報の取得について案内していただくことになりました。また、地域包括支援センターはシニアステーション羽田に区ハザードマップを配布し、周知してもらうこととなりました。この取り組みは現在既に行っているところでございます。

●区レベル会議への提案としては、区の防災アプリやハザードマップなど、ひとり暮らし高齢者等が避難の際に役立つ情報の周知や理解促進、また年齢層に応じた取得しやすい情報ツールの提案及び高齢者の情報リテラシーを向上する取り組みなどが挙げられました。

●私からの報告は以上です。

会長

●事務局からの説明に対して、ご意見などありましたら、挙手をお願いいたします。

委員

●日常生活圏域レベル会議は、18 の日常生活圏域レベルで行うのですか。今回は池上等の４つの報告があったということですが、残りの 14 の報告はどういう形になっているのか知りたいのが１点です。

●もう１つは、今回の区レベル会議では、区レベル会議への提案が、それぞれ４つの地区から出ていて、それに対して今ここで検討するという理解でよろしいでしょうか。

高齢福祉課長

●委員がおっしゃる通り、18 の出張所の管轄区域から区レベル会議へ４つ、それぞれの地域福祉課長から抜粋していただき、ここで取り上げさせていただいたということがまず１点です。

●区レベル会議への提案で挙げたものについて、ご意見をいただきたいということが、２点目の回答です。

委員

●残りの 14 圏域の報告はあるが、今回は出していないという理解でよいでしょうか。

高齢福祉課長

●今回はお出ししておりません。主なところを抜粋してお出ししております。

委員

●取り上げた４つ以外に 14 圏域の報告があるということでよろしいでしょうか。

●なぜ、この話を聞いているかと言いますと、社会福祉協議会の職員がこの会議に多く参加しているためです。聞き及んでいるものもありますが、昨年度に全部で何回実施したかという資料が必要であると思います。そして、残りの 14 圏域についても、実施しているのであれば、中身を知りたいと思います。

高齢福祉課長

●委員からご意見をいただきましたので、本日ご報告していない資料は、後程データでお送りさせていただきます。

委員

●池上の実施報告書について、特に男性の方で、通いの場に参加されない方のアプローチの方法の検討に関して、これはいつも議題に挙がることかと思います。

●この中に、検討内容として PR の重要性や雰囲気づくりが挙げられていましたが、区レベルの会議への提案として、通い続けられる場に求められる雰囲気づくりなどが記載されています。他に何か具体的な検討内容があるのか、過去に検討したものがあれば、提案としてもう少し出していただけると検討がしやすいと感じました。もしあれば教えてください。

大森地域福祉課長

●現在、様々な方法を考えているのですが、この報告書は９月までの分をまとめさせていただいております。

●今回新たに本門寺の歴史に触れながら、著名人や徳川家のお墓、力道山のお墓など、男性の興味を引くテーマを３月に設定いたしました。より多くの方に参加いただけるような企画を考えながら、いかに通いの場に男性を巻き込んでいくかについて、試行錯誤しているところでございます。

委員

●他の日常生活圏域レベルで上手くいっているところがあるのではないかと思います。

●他の圏域で成功している例、例えば、男性の参加者が多いところの成功の要因について、テーマなのか、PR の方法なのか、何が男性を引き出すポイントになるのかを探るために、他の圏域の成功例もぜひ参考にしていただきたいと思います。

大森地域福祉課長

●検討会では、口コミによる誘い込みも重要であるという意見も出ております。お友達同士というわけではありませんが、いかに巻き込んでいけるかが、これからの人集めの重要なキーポイントになると思います。この点について、現在関係者と話し合っているところです。

委員

●難しい課題だと思いますので、よろしくお願いいたします。

会長

●例えば、音楽鑑賞や身だしなみ、それに散策などといった活動が、他の地域でも成功していることはあるかと思います。それが１回のイベントで終わってしまうと、盛り上がるのはその時だけで終わってしまうのではないかと思います。

●いかに継続し、しかも職員の方ができるだけ最小限のエフォートで、自主的にやってもらうためにどうするかが重要だと思いますが、そのあたりについて、何か作戦や見通しはあるのでしょうか。

大森地域福祉課長

●毎回参加者が変わる点について、同じ方がなかなか来てくださらないというのが実情で、音楽鑑賞会に関しても同様の状況です。

●いかに継続して参加していただけるかという点については、現在関係者と検討しているところです。今回の池上の散策を通じて、つながりが有機的にできないかと考え、試みているところです。

会長

●恐らく、これを半年に１回とか１年に１回行っても、仮に同じ方が参加していても、それ以降のつながりに結びつきにくいと思います。例えば、昭和歌謡なら昭和歌謡の同好会のような形になるのが、本来一番良いかと思います。大田区の多種多様な住民の中で、昭和歌謡が好きな方など、それぞれ多くいるはずです。そのような方々に音頭を取ってもらうとか、ボランティアで来ていただくと、本格的になると思いますし、お互いに活動の場も増えていくと思います。

●例えば、ボランティアが見つからなかった場合、現在区内には昭和歌謡を扱っている喫茶店、カラオケなどがあると思います。そのような場所には、その趣味を持つ方が自然と集まり、そこのオーナーはこだわりを持って営業しているため、ボランティアとして１ヶ月に１回ほど、このようなイベントを開催してほしいと頼めば、賛同してくれる可能性があります。その方にとっても新たな顧客の開拓になるかもしれません。職員や専門職の方々が全てを抱え込むのではなく、大田区の豊かな資源をうまくコラボレーションして活用する方が、お互い無理なくバラエティに富んだプログラムが展開できるのではないかと思います。このような視点で考えていただければと思います。

福祉部長

●大田区の取り組みについて補足をさせていただきます。

●高齢者が集まる場として、老人いこいの家があります。いくつかの受託法人がありますが、例えば、ある法人が行っている取り組みの一つに、男性だけの体操教室や男性だけの音楽鑑賞があります。これらは１、２年前から継続的にイベント性を持たせて、男性が興味を持つような取り組みを続けている老人いこいの家があります。

●施設長から伺ったのですが、申し込みの電話で男性から、本当に女性はいませんかという問い合わせがあったそうです。男性の中には、知らない場所や初めての場所に行くことに対して勇気が必要であり、女性のコミュニケーション能力には敵わないと感じている方もいらっしゃると思います。このような取り組みを老人いこいの家で行っているところがいくつもあります。

●大田区はシニアステーションと称し、元気高齢施策の一環として様々な取り組みを行っています。特に新たな特別出張所を設立する際には、シニアステーションと地域包括支援センターを併設することを目指し、その数を増やしています。

●例えば、千束地区では複合施設が建設され、千束特別出張所、地域包括支援センター千束、そしてシニアステーション千束が同じフロアに設置されました。そこでは、男性向けのイベントとして、「俺の筋肉」や「俺のあて」といった名称で、筋力トレーニングやフレイル予防体操、料理教室が実施されています。これらの活動は、男性同士で集まり、成功を収めています。

●イベントを運営しているのは地域包括支援センターの法人ですが、区では年に１回、

地域包括支援センターの好事例を共有する場が設けられております。先日、民生委員の会長もご聴講いただき、他の地域包括支援センターに対し、「どのような取り組みが行われているか」という事例共有が行われました。

●これからは、サラリーマンを退職した男性高齢者が地域に出やすく、また参加しやすい取り組みをできる限り増やしていくことや、他の事業所が、区の地域包括支援センターやシニアステーション、老人いこいの家と共有しながら、継続的に実施していく取り組みも少しずつ進めてまいります。

●以上、ご紹介させていただきました。

委員

●例えば、雪谷でセルフネグレクト状態にある人の支援がありましたが、これは個別レベルの会議の中で、こうした事例が多く困っている、地域包括支援センターや専門職も困っているので、雪谷では日常生活圏域レベルで取り上げたのだと推察します。

●次に区レベル会議への提案として、セルフネグレクト状態にある方の支援は、１つの日常生活圏域では対応できないので、区のレベル会議に上げたのだと思います。やはり日常生活圏域レベルの会議だけでは解決できないことが多いと感じます。

●現在、重層的支援会議を行っており、地域ケア会議と重層的支援会議との間で、すみ分けや連携を図る必要があると考えております。社会福祉協議会は、権利擁護の中核機関として、検討支援会議を開催しております。セルフネグレクトのケースでは権利行使が難しい、または危険性があるため、それに対応するケース会議を設ける必要があります。この３つの会議をどう構築するかが重要であると考えています。その元となるのが、個別レベル会議であると思いますが、これは地域包括支援センターを中心に多く開催されているのではないでしょうか。

●３つの大きな会議を実施し、解決への道筋を共有することが重要であると考えます。

高齢福祉課長

●個別レベル会議は、令和５年度の個別レベル地域ケア会議の実績として、106 回開催しました。126 件のケースを取り扱い、そのうち支援困難ケースでは 44 回 47 件、自立支援ケースは 57 回 74 件、ケアマネ支援は５回５件となっています。

●会議の中で解決するものもあれば、さらに日常生活圏域レベルで議論が必要なものもあるかと思いますが、個別レベル地域ケア会議は年間で 100 回以上開催されています。

委員

●大田区では地域ケア会議のレベルを細かく区分けしており、多くの自治体でも同様の取り組みが行われています。

●日常生活圏域レベルの会議に上がってくる前に、個別レベル地域ケア会議が存在します。個別支援で生じた課題がその人だけの問題ではなく、地域に同様の課題を持つ人が他にもいるので、それを日常生活圏域の課題として取り上げます。日常生活圏域レベルの会議で出てきた課題に対しては、圏域内で様々な解決策を模索しますが、解決が難しい場合は区レベルで取り上げて、施策につなげられるようなものもあります。このように地域ケア会議は連続性を持って、多層化されていると思います。それが分かりやすく出ている事案はございますか。

●つまり、その連続性の中で、区が「これはやらなければならない」となると、個別支援の施策の必要性に戻ってくるわけです。ただし、全て実施できるわけではなく、その中で何が重要かを見極める必要があります。区レベルの提案として挙がっているものは、比較的実行しやすいものが多いです。しかし、絶対に必要な施策であるにも関わらず、区レベルには挙がってこない提案もあるかもしれません。

●個別レベルで挙がったが解決できないものを、大田区がうまく吸い上げてこの会議まで持ってきているのか、を伺いたいと思います。

糀谷・羽田地域福祉課長

●委員がおっしゃる通り、地域ケア会議は個別レベルから始まっています。個別の会議については個別のケース事例に対し、地域関係団体が現状課題の共有と今後の対応について検討しています。

●日常生活圏域の会議は参考資料にございますが、昨年度は全体で 57 回、テーマは 37 件と多岐に及んでいます。個別のケースから派生した地域課題の気づきに基づいて、日常生活圏域で地域団体とさらに検討する事例もあるかと思います。個別援助の部分については、地域ケア会議を起点とし、地域福祉課や地域包括支援センターが関わっており、寄せられた相談事を受け止め、場合によっては地域福祉課で行っている重層的支援会議等につながる場合もあります。

委員

●例えば、個別レベルの会議で上がった「これが欲しい」、でも「ここにはない」という要望を日常生活圏域レベルの会議で「これを作っていかなければならない」、「しかし、私たちだけではどうにもならないので、区で検討してもらえないか」という流れが本筋の考え方です。

●そのような流れで上がってきたものがこの中に何かあるか、または上がっていないものの中で、実際にあったが時間の都合で触れられなかった事案があれば教えていただきたいです。それらが区レベルで「ぜひ他の部署との調整も含めて検討してもらえないか」という後押しをする会議に位置付けとしてあるべきではないかと思います。

●提案も含めてですが、調べて該当するものがあれば、教えていただければと思います。

糀谷・羽田地域福祉課長

●いただいたご意見の通り、個別レベルの会議の発展形としての日常生活圏域の会議があるかと思います。

●日常生活圏域の会議につきましては、昨年度の実績などを確認したところ、広範にわたる地域課題の共有や、ネットワークづくり等の広域的な支援体制の構築を意識して開催されているのが現状です。

●今後は、委員からご指摘いただいた視点を踏まえ、今一度この会議のあり方についてしっかりと理解をして、進めていきたいと考えております。

会長

●次年度に向けて、区レベル会議のあり方について、私も長くこの区の会議に関わっており、時間を短縮したり、じっくり取り組んだりと試行錯誤を重ねてきました。

●しかし、どうしてこの問題が上がってきたのかが明確であれば、議論も進めやすくなると感じます。また、30 分の中で大きな４つの課題を解決するのは難しいと思います。どの課題にどれだけの時間を割くかについても、今後の計画に反映していただければと考えています。

委員

●令和５年度の実績を見せていただきました。医療の包括ケアシステムに関して、医療関係の出席が少ないと感じたことと、薬局や薬剤師も医療の担い手となっておりますので、仲間に入れていただきたく存じます。

●内容にもよるかもしれませんが、可能であれば声をかけていただきたいと思います。もし対象者が見つからなければ、私にご連絡ください。よろしくお願いします。

会長

●報告事項（１）大田区日常生活圏域レベル地域ケア会議の事例紹介については、以上とさせていただきます。

●本日予定していた報告事項は、全て終了しました。進行を事務局にお返しします。

高齢福祉課長

●以上をもちまして、大田区地域ケア会議区レベル会議を終了いたします。円滑な議事進行に多大なるご協力をいただき、ありがとうございました。